港湾振興便り

２０１６．９
第１１２号

＊：

目　　　次

＊：

１　ポートエッセイ

●「一村一品運動」の父　平松守彦氏の功績を偲ぶ
～日本港湾振興団体連合会会長（新潟市長）篠田　昭～

２　トピック

●酒田港　「海のお仕事探検隊」を開催
（酒田市商工観光部商工港湾課）

●酒田港　東北初「EATBEAT（イートビート）」を開催
（酒田市商工観光部商工港湾課）

●酒田港　地方初進出「健’ｓ BAR in 酒田」を開催
（酒田市商工観光部商工港湾課）

●日本最大級の民謡流し　～新潟まつり「大民謡流し」～
（北陸地方整備局 総務部 港湾空港総室）

●「輪島港における緊急支援物資輸送等訓練」を実施
（北陸地方整備局 金沢港湾・空港整備事務所）

●「ビーサン跳ばし世界選手権 in 金沢」が開催されました。
（北陸地方整備局 金沢港湾・空港整備事務所）

●「海フェスタ東三河」が開催されました
（海フェスタ東三河実行委員会事務局（豊橋市産業部みなと振興課内））

●第 13 回大阪湾再生水質一斉調査を実施しました
（近畿地方整備局 神戸港湾空港技術調査事務所）

●宮津湾にぎわいフェスタ２０１６が開催されました

（近畿地方整備局　舞鶴港湾事務所）

●神戸港にクァンタム・オブ・ザ・シーズが 2 回目の寄港

（近畿地方整備局　港湾空港部　港湾計画課）

●別府市長杯ビーチバレーボール九州大会に参加しました

（九州地方整備局　別府港湾・空港整備事務所）

●北海道初！全国でも初！？ダイヤモンド・プリンセス「親子による特別船内見学会」

（函館市港湾空港部）

●大阪で「境港利用促進懇談会」を開催しました

（境港貿易振興会）

３　お知らせ

〇大浜海岸 酒田ビックビーチフェスタ２０１６

〇第 9 回大阪湾生き物一斉調査　結果発表会

〇公認釣りインストラクター募集

＊：＊

１　ポートエッセイ

―「一村一品運動」の父

平松守彦氏の功績を偲ぶ―

～日本港湾振興団体連合会会長（新潟市長）篠田　昭～

＊：＊

我が「日本港湾振興団体連合会」の会長もお勤めいただいた平松守彦氏が先月２１日、お亡くなりになった。心から哀悼の誠を捧げ、港湾振興をはじめ地域活性化に尽力された生涯に、深く敬意を表します。

(田中型政治の反面教師)

私は昭和５９（１９８４）年、当時勤めていた新潟日報の記者として、「一村一品運動」を展開していた大分県を取材に訪れ、平松大分県知事（当時）からも４０分ほどお話を聞かせていただいた思い出がある。以下、当時の思い出を綴って追悼の言葉に変えさせていただく。

大分を取材するきっかけは、新潟県出身で「今太閤」ともてはやされた田中角栄元首相の功罪を検証する企画だった。ロッキード疑獄に連座して逮捕された田中氏は昭和５８年、東京地裁で有罪判決を受けた。同年暮れには「ロッキード判決選挙」が行われ、田中氏は空前の２２万票を獲得し、「闇将軍」として再び中央政界に君臨した。

昭和５０年代の新潟県は、田中氏が仕込んだ上越新幹線や北陸道・関越道などの高速道が相次いで建設され、「公共事業王国」と呼ばれていた。地域開発では圧倒的な政治力を持つ田中氏を地域が頼り、「力比べ」のチャンピオンが地元にいることの有り難味を県民は享受しているかに見えた。

しかし、田中元首相もいつかは政治的生命を失う。「新潟県はその時に備えていかなければ大変なことになる」というのが、私たち取材チームの問題意識だった。「公共事業による基盤整備と表裏一体で論議されるべき地域の未来図づくりが忘れ去られているのではないか」と警鐘を鳴らすキャンペーンに取り組んだ。

（地方の時代を体現）

当時、日本列島では公共事業を奪い合う「力比べ」とは違う取り組みが始まっていた。過度な中央集権に異を唱え、「地方の自立」を目指す動きだった。その旗手の一人が「地方の時代」を提唱し、昭和５０年に神奈川県知事に就任した長洲一二氏だった。

同じ年に、通産省（当時）から大分県副知事に招かれた平松氏は、この潮流に敏感に反応した。５４年に大分県知事になると、「地方経営の時代」を前面に打ち出した。「力比べ」ではなく、自立自助の精神で独自のまちづくりや地域おこし、島おこしなど、「知恵比べ」の時代を先取りしたのが平松氏だった。地域おこしを体現し、地方経営を実現する手法を「一村一品運動」と名付けたのだった。

（県は自ら助くる者を助く）

私はこの時、「一村一品」の先進地域である由布院町や大山村、宇佐市などを取材した。印象的だったのは地域おこしのリーダーたちが、そろって平松氏のことを親しげに、そして自慢げに語る姿だった。当時、「日本で最も女性に人気のある温泉」と言われた由布院の温泉宿のご主人も、「ウメクリ植えてハワイへ行こう」のキャッチフレーズで農村のイメージを変えた大山農協のリーダーも、平松氏のことを語るときの嬉しそうな表情が忘れられない。

大分県庁でお会いした平松氏は、エネルギッシュに大分の魅力と、自立自助の地域づくりを語ってくれた。「一村一品運動は県が勧めるからやるのではなく、自分たち地域のために自らが取り組む運動なのです」と平松氏は語った。

「だから私は、天は自ら助くる者を助く、をもじって、県は自ら助くる者を助く、といつも言ってるんですよ」―そう言って微笑んだ平松氏の温顔が今も脳裏に焼き付いている。

合掌。

＊：

２　トピック

＊：

●酒田港　「海のお仕事探検隊」を開催

酒田市商工観光部商工港湾課

8 月 22 日（月）に酒田港と酒田港周辺に立地する工場にて「海のお仕事探検隊」が行われました。

今回の取組は、公益財団法人日本財団が主催する「海と日本プロジェクト２０１６サポートプログラム」助成事業の「『西の堺　東の酒田』湊町復活（リバイバル）事業」の一環として、国、山形県、酒田市、関係団体等で組織する「『海の日』記念事業実行委員会」が主催し、酒田港周辺における海に関連するお仕事について施設等（輸出される製品の製造、船舶、港湾施設、荷役等）の見学を実施し、海に関係して働くことについての興味・関心を高め、将来の海事人材の確保に向けた取り組みとして行われました。

地元にある工場でつくられた製品が、同じく地元にある港からすぐに世界各地へ運ばれていくこと、大きい機械やたくさんの作業車での作業を子供たちは目を大きくして見学していました。

国土交通省東北地方整備局酒田港湾事務所
酒田港の学習

花王株式会社酒田工場
工場見学

製品の保管、コンテナへの運搬作業を見学

ガントリークレーンの下で
荷役作業を学習

酒田市内の小学生ら 34 人が参加、国土交通省東北地方整備局酒田港湾事務所で酒田港についての学習後、花王株式会社酒田工場にて、地元の酒田工場でどのような製品がつくられているかの説明と実際に製品を製造している施設を見学、製造された製品が海外に輸出されるまでの製品の保管、運搬、コンテナ荷役作業まで一貫して見学しました。

●酒田港　東北初「EATBEAT（イートビート)」を開催

酒田市商工観光部商工港湾課

8 月 23 日（火）に酒田港本港地区（みなとオアシス酒田）で「EATBEAT（イートビート)」が行われました。

今回の取組は、公益財団法人日本財団が主催する「海と日本プロジェクト２０１６サポートプログラム」助成事業の「『西の堺　東の酒田』湊町復活（リバイバル）事業」の一環として、国、山形県、酒田市、関係団体等で組織する「『海の日』記念事業実行委員会」が主催し、東北で初めてとなる食と音楽の融合イベントである「EATBEAT（イートビート)」を通じて、地元酒田の海産物等の庄内・酒田の食の豊かさを再確認するとともに、これまでと異なった「海とのつながり」を認識する取り組みとして行われました。

会場となった「さかた海鮮市場」では、地元酒田の七蔵の日本酒、新鮮なお刺身の御造りや海鮮ちらし寿司、メインテーブルには、在来作物のゴドイモのポテトサラダを“日本 100 名山”に数えられる地元の鳥海山に見立てて盛り付け、キュウリのピクルスや唐揚げで“日本三大急流”の一つである最上川の流れを表現するなどアートな逸品も用意されました。また、会場で参加者が人参スティックをかじる音、タマネギを切る音や庄内豚を焼く音など食にまつわる音をライブで収録し、即興で演奏するパフォーマンスも行われました。

「食べる音、料理する音を音楽にする発想がおもしろい」と約 100 名の参加者は、おいしく盛り付けられた料理を見て、食べて、調理音を聞いてと、「五感」を使って、食材まるごとを味わっていました。

海鮮チラシ寿司

お刺身の御造り

メインテーブル

メインテーブルはすぐに人だかりに

「人参スティックをかじる音」収録

「タマネギを切る音」収録

「庄内豚を焼く音」収録

即興で演奏

会場は大盛り上がり

スタッフ一同で

●酒田港　地方初進出「健's BAR in 酒田」を開催

酒田市商工観光部商工港湾課

8 月 24 日（水）に「健’s BAR in 酒田」が行われました。

「健’s BAR」は、NPO 法人日本ビーチ文化振興協会が主催し、不定期で東京で開催されているイベントで、国、山形県、酒田市、関係団体等で組織する「『海の日』記念事業実行委員会」が共催して、東京以外では初めて山形県酒田市で開催されました。

マスター健（朝日　健太郎　氏）がゲスト（参加者）をお招きするという嗜好を凝らした形式で、始めに、朝日氏からビーチバレーボールの取組について紹介、リオデジャネイロオリンピックの視察でのお話では、ビーチバレーボールは競技の中でチケットの取りづらい人気競技の一つであることが紹介されました。

次に、地元酒田を本拠地とするバレーボールチーム「プレステージ・インターナショナル　アランマーレ」の北原監督とのトークショー。トークショーの途中から健’s BAR に参加していたアランマーレの選手も加わり楽しいトークが進められました。

その後は、お酒を飲みながらの歓談。参加者同士の会話も広がる中で、マスター健が各テーブルをまわってゲストとお話しする様子も見られました。

最後にじゃんけん大会を開催。最後まで勝ち残った参加者には、サイン入りのビーチバレーボールや特製 T シャツが送られ、参加した約 50 名の参加者は楽しいひと時を過ごされていました。

「健 ‘s　BAR in 酒田」OPEN

マスター健（ 朝日　健太郎　氏 ）がお出迎え

リオデジャネイロオリンピック
視察の様子を紹介

バレーボール
プレステージ・インターナショナル
アランマーレ　北原監督　とのトークショー

アランマーレ　森選手　も参加して
北原監督のお話にも熱が入る

各テーブルをまわり歓談
地元ビーチバレーボール関係者との意見交換も

全員参加でじゃんけん大会

サイン入り賞品をプレゼント

●日本最大級の民謡流し ～新潟まつり「大民謡流し」～

北陸地方整備局 総務部 港湾空港総室

平成２８年８月５日（金）、新潟市において「新潟まつり」が始まりました。

新潟まつりのルーツは古く、「住吉祭」「川開き」「商工祭」「開港記念祭」という歴史ある４つの祭りが１つとなり、昭和３０年から続けられ、毎年８月上旬の金、土、日曜日の３日間にわたり市内各所で繰り広げられます。

まつり初日夜は、それぞれ揃いの浴衣に身を包んだ１万５千人以上の踊り手が参加する日本最大級の「大民謡流し」が、土曜日は、古式ゆかしく華やかな「住吉行列」、「水上みこし渡御」、「子供みこし」などが繰り広げられ、最終日には、新潟の夜空をスターマインが彩る「花火大会」でクライマックスを迎えます。

なかでも「開港記念祭」は新潟港が日本開港５港の１つとして明治元年に開港、昭和５年の開港６０周年記念式典を機に「記念祭」とした経緯もあり、我々港湾に携わるものにとっては縁のあるまつりです。

毎年まつりが近づくと職場有志による「みなと民謡流し愛好会」を立ちあげ、「みなと」のＰＲはもちろん地域との交流、連携を深めることを目的に揃いの浴衣で参加しています。

民謡流しは飛び入りもＯＫ、みなさまも８月最初の金曜日は是非新潟にお越し下さい。

「新潟甚句」にあわせて踊ります

「萬代橋」での踊り

出典：新潟まつりＨＰ

最終日の「花火大会」

出典：新潟まつりＨＰ

●「輪島港における緊急支援物資輸送等訓練」を実施

北陸地方整備局 金沢港湾・空港整備事務所

平成２８年８月６日（土）、輪島市と北陸地方整備局の共催により、輪島港で初の大規模地震に備えた緊急支援物資輸送等訓練を市民を含む約２２０人の関係者の参加により実施しました。

訓練は、能登半島北方沖を震源とする震度６強の地震が発生し、市内の道路に大きな被害を受けたとの想定で行われました。

当日は、輪島港マリンタウンの岸壁に新潟港湾・空港整備事務所所属の大型浚渫兼油回収船「白山」が接岸し、飲料や毛布などの支援物資の輸送訓練、油回収訓練や金沢港湾・空港整備事務所所属の港湾業務艇「のとかぜ」での避難者輸送訓練、輪島市民参加による応急手当訓練など、陸路が絶たれた際の海路を生かした災害時対応や関係機関の連携を確認しました。

また、翌日は「白山」が一般公開され、操舵室などの船内を大勢の家族連れが見学し、油や土砂を回収する仕組みに興味を示していました。

【輪島市との連携】

緊急支援物資輸送訓連

飲料水提供訓練

【輪島消防署との連携】

「白山」による油回収訓練

負傷者搬送訓練

●ビーサン跳ばし世界選手権 in 金沢が開催されました。

北陸地方整備局 金沢港湾・空港整備事務所

平成２８年８月２８日（日）、金沢市金石（かないわ）海岸において、「ビーサン跳ばし世界選手権 in 金沢」が開催されました。

本イベントは、ビーチスポーツの一つである『ビーサン跳ばし』と『海岸清掃』を合わせて実施し、環境意識を高めるほか、海や港に親しみを持ってもらうことを目的に平成２０年から毎年開催されており、今年で８回目の開催となります。

今年は、大会前の海岸清掃には約４００人が参加、ビーサン跳ばしでは、揃いのユニホームを身につけたチームなど６１チーム（３人一組）が参加し、団体戦を競ったほか、個人戦においても世界記録（３３．１３ｍ）の更新に挑むなど、暑さが和らぎつつある薄曇りの空に向け、力いっぱいサンダルを蹴り上げ会場をおおいに盛り上げました。

金石（かないわ）海岸の砂浜には県内外から若者や家族連れなど沢山の方が集まり、夏休み最後の日曜日を満喫していました。

〇始蹴式

（左から、下沢県会議員、岡田参議院議員、
粟森会長、福元金沢港所長）

〇ビーサン跳ばし

〇 パネル展示の様子

（金沢港の利用状況について）

〇おそろいスタイル賞

（考えたテーマに沿った仮装でアピール）

〇参加者集合写真

●「海フェスタ東三河」が開催されました

海フェスタ東三河実行委員会事務局（豊橋市産業部みなと振興課内）

「海フェスタ」が、愛知県豊橋市を中心とした５市２町１村で開催されました。
７月１６日(土)にスタートした「海フェスタ東三河」は多くの皆さまにご参加いただき、盛況のうちに３１日(日)の閉会式を迎え、１６日間の会期を終了しました。期間中にはメイン会場の豊橋市神野地区をはじめ東三河８市町村でたくさんのイベントが行われ、来訪者１００万人の目標を達成いたしました。

●第 13 回大阪湾再生水質一斉調査を実施しました

近畿地方整備局 神戸港湾空港技術調査事務所

平成 28 年 8 月 9 日大阪湾およびその集水域で「第 13 回大阪湾再生水質一斉調査」を実施しました。年に一度、水質汚濁が顕著になる夏場の一日を定め、産官学による参加機関が一斉に水質調査を行います。今年度は 38 機関が参加し、547 地点の調査結果はホームページ等で公表します。
大阪湾水質一斉調査 情報公開サイト
http://kouwan.pa.kkr.mlit.go.jp/kankyo-db/water/index.html

【水質調査の様子（大阪市内)】

●宮津湾にぎわいフェスタ２０１６が開催されました

近畿地方整備局　舞鶴港湾事務所

7 月 17 日（日)、みなとオアシスたいみやづを会場に「宮津湾にぎわいフェスタ 2016」が今年も開催されました。
今回はイベントを始めて 10 回目の開催となることから、地元で獲れた鮮魚や干物が当たる大抽

選会＆スタンプラリーを実施しました。スタンプラリーは午後からの大抽選会応募用紙も兼ねており、3つ以上のイベント、ブースでスタンプを集めて頂くことを条件としましたが、非常に好評で多くのイベント、ブースに参加して頂くことができました。

中でも毎回人気なのが地元で獲れた鮮魚販売です。かなりお得な値段で販売されることもあり、これを目的に来場される方もおり、販売開始30分後にはほとんど売り切れとなるほどです。

他にも子供達に人気のサザエのつかみどり、地引き網体験など毎年人気のイベントも開催されました。

当日は時折小雨が降るあいにくの状況でしたが、市内外を問わず多くの方に来場して頂きました。

●神戸港にクァンタム・オブ・ザ・シーズが2回目の寄港

近畿地方整備局　港湾空港部　港湾計画課

8月25日　神戸港にクァンタム・オブ・ザ・シーズが2回目の寄港をしました。

今回は、夏休み中の寄港ということで、たくさんの子ども達が、約22万トンの大型客船を出迎えました。

着岸に合わせて、子ども達の手から、色とりどりの風船が一斉に大空に放たれる様子は何より、美しく感動的な光景でした。

クルーズの盛り上がりとともに、“みなと”と人々の距離が随分近くなってきていると感じます。交流の場としても“みなと”が更に賑わうことを期待します。

また、当日は9月11日～12日に神戸市で開催される「G7保健大臣会合」に向けた保安対策の一環として、税関・海上保安庁・地方整備局・水上警察等が合同でPR活動を実施しました。たくさんのキャラクターの登場に子ども達も大喜びでした。

大空に放たれる風船

関係官庁合同での PR 活動

●別府市長杯ビーチバレーボール九州大会に参加しました。

九州地方整備局　別府港湾・空港整備事務所

平成２８年８月２７日（土）、別府港海岸 餅ヶ浜里浜ビーチで「別府ポートフェスタ２０１６」が開催されました。

本イベントは「みなとオアシス別府港」認定に伴い、別府港の賑わいづくりの取り組みとして２００８年から開催しているもので、今年で９回目となり、今や別府の夏の一大イベントとして定着しています。

メインイベントの「別府市長杯ビーチバレーボール九州大会」には、エキスパートとビギナークラスを合わせ８３チームの参加があり、当所からも２チームが参加しました。

その他「ビーチフラッグ」や「フライボード体験」など多彩なイベントに多くの方が参加され、とても賑わいのある一日となりました。

開会式の様子

ビーチバレーボール九州大会

フライボード体験
（写真はﾃﾞﾓﾝｽﾄﾚｰｼｮﾝ）

ビーチフラッグ

●北海道初！全国でも初！？ダイヤモンド・プリンセス「親子による特別船内見学会」

函館市港湾空港部

外国客船の中に入るには、必ずパスポートなどの身分証明書が必要－業界内ではある意味「常識」であるこの取扱いを超えた企画が函館港で行われました。

３年前から日本発着クルーズを開始したアメリカのクルーズ客船「ダイヤモンド・プリンセス」は、日本各地に寄港していますが、函館港は毎年７回程度寄港いただいており、日本有数の寄港地の一つとなっております。

そんな「おなじみ」のダイヤモンド・プリンセスが、１５７周年を迎える「函館港まつり」初日の８月１日に寄港しましたが、これに合わせ、全国的にも例がない、身分証明書を持たない子どもが参加可能な「親子による特別船内見学会」が行われました。

船社のご厚意により実現した今回の企画に、狭き門を通過して参加した小学生の児童達は、初めての豪華な船内に目を輝かせ、中には夏休みの自由研究の課題とするためか、熱心にメモを取る児童も。

来年も寄港を予定している、ダイヤモンド・プリンセス。夏休みの恒例企画になることを願いつつ・・・

●大阪で「境港利用促進懇談会」を開催しました！！

境港貿易振興会

北東アジアのゲートウェイの役割を担う境港の現状について、より多くの皆様に知っていただき、利用促進に繋げることを目的とする「境港利用促進懇談会」を、平成２８年８月９日（火）に大阪市で開催いたしました。関西圏の物流・荷主関係者など約１００名の方にご参加いただきました。

主催者の境港貿易振興会会長である中村勝治境港市長が開会のあいさつで、コンテナ取扱量は３年連続で 23,000TEU を超え、昨年は過去最高記録を更新できたことへの感謝を述べた上で、この４月から上海航路を利用した台湾向けサービスが始まり、新たな取扱貨物の発掘に繋がるものと期待。また、大型クルーズ客船の寄港数が過去最高になると見込まれることや、国直轄事業での貨客船ターミナルや、９月に供用開始される国際物流ターミナルや内航 RORO 船のトライアル運航実施など、港湾機能の一層の向上に努めていることを報告。来場者に対して境港の利便性の向上をアピールしました。

講演では、まず流通科学大学 商学部 教授 森隆行氏に『激動するアジアと日本海側地方港の役割』と題し、世界と日本のコンテナ港の現状について解説、コンテナターミナル事業を取り巻く環境変化やコンテナ港湾の将来等についての見解を示され、さらに境港の将来について「グローバルサプライチェーンの中に境港を組み入れることで、境港を継続的に利用してもらうことができるのではないか」との提案をいただきました。

続いて、センコン物流株式会社 ＣＥＯ 代表取締役会長兼社長 久保田晴夫氏に『境港利用企業からみたロシア沿海地方におけるビジネスチャンス』と題して、ご講演をいただきました。ロシアでのビジネスチャンスについて「物理的に日本から近いため、商品や物資の運搬がしやすく、まだまだ発展途上なのでアイデア次第ではいろいろな事業を開始できる」「人口はモスクワ等に比べ少ないので、現地で製造・加工し、日本へ輸出することに可能性がある」と述べられました。

参加者からは「大変わかりやすく理解を深めることができた」「実際に境港利用されている企業の貴重なお話しが聞けた」などの感想が寄せられました。

セミナー後の懇親会にも多数のご参加をいただき、講師の先生方や出席者皆様との間で交流を深められ、盛況のうちに閉会しました。

挨拶をする中村会長

セミナー会場の様子

＊：

３　お知らせ

＊：

◇ 大浜海岸 酒田ビックビーチフェスタ２０１６

開催日時：平成２８年９月２２日（木）１０：００～１５：００
会　　場：酒田市大浜海岸特設会場
概　　要：みんなで参加できる楽しいイベントが盛りだくさん。皆様お誘いあわせの上、ぜひ酒田市大浜海岸特設会場までお越しください。
問合せ先：酒田市商工港湾課　ＴＥＬ０２３４－２６－５７５８

◇ 第９回大阪湾生き物一斉調査　結果発表会

今年の春に実施した「第9回大阪湾生き物一斉調査」の調査結果発表会を開催。調査に参加した大阪湾沿岸で活動するNPO等団体等からの調査報告（ポスターセッション、口頭発表）や大阪湾に関する話題提供などを予定

開催日時　：平成28年9月22日（木・祝）
開催場所　：大阪市立自然史博物館（大阪市東住吉区長居公園1-23）
主催者名　：大阪湾環境再生連絡会 大阪湾生き物一斉調査プログラム実行委員会（事務局：近畿地方整備局神戸港湾空港技術調査事務所調査課）
お問い合せ：近畿地方整備局神戸港湾空港技術調査事務所調査課　TEL 078-331－0058
Web ページ： http://kouwan.pa.kkr.mlit.go.jp/kankyo-db/life/
（大阪湾生き物一斉調査情報公開サイトホームページ）

◇ 公認釣りインストラクター募集

１、公認釣りインストラクター資格区分
　① 海　面：船釣り、磯釣り、投げ釣り、擬似餌釣り（ルアー、フライ）
　② 内水面：渓流釣り、清流釣り、止水釣り、擬似餌釣り（ルアー、フライ）
　　※２０歳以上ならだれでも受講、受験可能です
２、養成講習会会場、日程
　①東京会場：東京海洋大学（品川キャンパス）
　　平成 28 年 11 月 12 日（土）～13 日（日）
　②大阪会場：ヒューマンアカデミー大阪心斎橋校
　　平成 28 年 12 月 3 日（土）～4 日（日）
３、資格試験
　2 日目の講習終了後、午後から同じ会場で実施
４、申し込みの締め切り　　講習会の 1 週間前
５、受講、受験料　　20,000 円

６、お問い合わせ、お申し込み先

(一社)全日本釣り団体協議会

〒102-0074 東京都千代田区九段南4丁目6番13号ﾆｭｰ九段ﾏﾝｼｮﾝ1001号

TEL　０３－３２６５－４１９１　FAX　０３－５２７５－７０７７

メール　：　jimukyoku@zenturi-jofi.or.jp

詳細はホームページの『インストラクター』≪募集要項≫をご覧ください

http://www.zenturi-jofi.or.jp/

７、主催者　：　一般社団法人 全日本釣り団体協議会

＊：＊：＊：＊：本メールマガジンに関するお問合せやご意見、また情報の送り先：＊：＊：＊

日本港湾振興団体連合会事務局

〒105-0002　港区愛宕１－３－４

TEL：03-5776-0630

FAX：03-5776-0631

e-mail：bcf06323@nifty.com

＊：